

渋沢栄一は三つの「魔」を持っていた

昨年終了しましたNHK大河ドラマの主人公、渋沢栄一のお話しです。

渋沢栄一は埼玉の農家から出てきて一橋家に仕える。侍になりたかったのです。ところが、割り当てられたのは勝手番。これでは上の人と話し、認めてもらうチャンスがない。

だが、上の人が毎朝乗馬の訓練をする。この時なら話すチャンスがあるということ、渋沢は馬と一緒に走って自分の思いや考えを上の人に話す。毎朝それをやる。

すると、あいつは見どころがあるということで、そこから彼の人生は開けていきます。

その後、数奇な運命をたどり、現在の日本を支える、銀行、会社など数百社を民間で立ち上げた偉人です。いろいろな苦勞と口で言ってしまうと簡単ですが、本当に大変な苦勞があったはずで。

いろいろなアイデアを抱く人はたくさんいます。だが、それを創業に持っていき、軌道に乗せられるかどうかの境目はどこなのでしょう。多くの人はこの境目を乗り越えられず、アイデアは単なるアイデアで終わってしまいます。

渋沢栄一はその境目を「人を一事に集中させる魔」と表現しています。情熱と言ってもいいし狂気と言ってもいい。何かをやるなら「〇〇魔」と言われるくらいにやれ、「〇〇魔」と言われるくらいに繰り返せ、ということです。彼の持っていた「〇〇魔」は吸収魔、企画魔、結びつけ魔です。

学んだもの、見聞したものをどんどん吸収し、身につけてやまない。物事を立案し、企画し、それを実行してやまない。人材を発掘し、人を結びつけてやまない。

普通にやるのじゃない。大いにやるのでもない。とことん徹底して、事が成るまでやめない。そういう「〇〇魔」としか言いようのない情熱、狂気。根本にそれがあるかないかが、創業者、成功者たり得るか否かの境目でしょう。

冬季北京オリンピックが開幕します。注目の男子フィギアスケートの羽生選手はこの一年、人類で誰も四回転半ジャンプに挑戦しています。本人も「このジャンプは人間が跳べないのでは？」と何度も思うそうです。それでも四回転半ジャンプを人類で初めて跳んで優勝したいと決意を述べています。まさに「四回転半ジャンプ魔」です。

お子様方にそんな「〇〇魔」を持てる情熱的な大人になれるよう、木田幼稚園は「幼児期教育魔」をもって励んでおります。

理事長